

未来への アップデート

— 30歳代からのライフプラン —

主なキャスト

三津谷 葉子
賀集 利樹
森 レイ子
萩尾 みどり

企画

一般財団法人 地域社会ライフプラン協会
(ライフプラン普及・啓発視聴覚教材制作委員会)

制作

東映株式会社 教育映像部



上映時間 36分

制作意図

働き方や時代を取り巻く社会経済状況などは、急激に変化しています。

この様な状況の中で、特に30歳代は、責任ある仕事を任されるようになったり、

私生活では、結婚や子育てなどの人生の大きな転機を迎えます。

この作品は、主に30歳代を対象として、現在の仕事への取組み姿勢の見直しや今と将来を充実して

生きるために、家庭経済設計の話題を中心に、仕事・家族・自分時間のバランスを取ること、

現在と今後の人生を自ら考えることの重要性を認識してもらうことをねらいとして制作しました。

この作品が、人事研修やライフプラン研修等での視聴覚教材として活用されれば幸いです。



あらすじ



市役所の広報課で働いている神山沙織（32歳）は、大学時代から旅行が趣味で、
今も仕事の合間を見つけては世界を飛び回っている。親友の小川仁美（32歳）とは大学時代からの付き合いで、
元同僚で現在は市民課で働いている小川健太（35歳）を仁美に紹介したのも沙織だ。

実家暮らしで独身の沙織は、先週もアフリカ旅行に行ってきたばかりで、仕事も順調にこなしていた。
そんなある日、職場で「地域に住んでいる外国人の騒音問題」について市民から苦情を受けて困っている健太を見る。

仕事が終わって帰宅した沙織だが、母も今帰ってきたところらしく、まだ晩御飯ができていないことに文句を言う。
家事を手伝いもしないそんな沙織の姿を見て、沙織の行き当たりばったりにも見える生き方への母の不満が爆発した。
結婚だけがすべてではないけれど、子どもを産むのにはタイムリミットがある。そういうことを考えたことがあるのか。
結婚しないなら結婚しないで、将来、一人で生きていく覚悟があるのか。ちゃんと貯蓄があるのかなど、
母の怒りが堰を切ったようにあふれ出た。母に痛いところを突かれ腹を立てた沙織は、
逃げるように部屋に戻って仁美に電話をかけて愚痴を並べた。

小川家では、毎日残業続きで、家でも仕事をしている健太と、マイホームや子育ての夢をみながら、
健太を支えようと家事に育児に翻弄されている仁美の姿があった。
健太はその人柄と親切さから、外国人からは頼りにされる一方で、市民からの苦情を受け、板挟みのような状況に
陥っており、仕事に追われるような毎日だった。そして、……



一般財団法人 地域社会ライフプラン協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-5-26 住友不動産青山ビル西館 6階 <http://www.lifeplan.or.jp>